

編 集 後 記

この編集後記を書いているのが2月の終わりですが、現在、新型コロナウイルスによる感染症が猛威を振るっており、今後の見通しが全く立たない状況です。今年に入ってからニュースで取り上げられはじめたこの感染症ですが、今では世界を揺るがすほどになっています。そんな中、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 に関して PubMed で検索すると、すでに 100 件以上の論文が掲載されているようです。その中には、The Lancet Infectious Diseases に掲載されている中国からの報告があります。81 例の新型コロナウイルス肺炎患者の胸部 CT 所見を検討し、その特徴などを報告しているものです。インターネットの普及で、情報があつという間に世界に発信される昨今、どの情報が正しく、どの情報がフェイクなのか、判断が難しくなっています。そんな中で、Lancet という権威ある雑誌が、迅速にこの疾患に関する情報発信する意義は非常に大きいと思います。この編集後記が掲載される 4 月には、COVID-19 感染症が落ちついていることを願っておりますが、現時点では、患者数が増え続けており、一般の医療機関でもその対応が迫られる状況で、この疾患に関する情報を的確に、しかも出来るだけ迅速に提供することは、医学雑誌にも求められる一つの重要な使命かもしれません。

ところで、「臨床神経学」の位置づけはどうでしょうか？ 今回の COVID-19 感染症は脳神経内科に関連する症状を呈することは少ないため、本誌が深く関わる可能性は高くないと思います。ただ、今後、脳神経内科疾患に関連する疾患が非常に流行し、的確な情報が早く求められている状況になった時に、素早く対応をとれるかは、日本神経学会の機関誌として重要な課題かもしれません。その際、本誌は日本人のみを対象としての雑誌と考えられがちですが、最近はどうとも言えない状況です。というのは、本誌は PubMed に英語抄録が掲載されており、日本以外、特に欧米からの論文のダウンロード数が増えています。おそらく、英語の abstract を見て興味深いと考えて、全文をダウンロードし、図や表を確認し（こちらは英語表記となっていますので）、場合によっては翻訳ソフトを使って、概要を理解している場合もあると思われます。「臨床神経学」に掲載される論文は日本人だけではなく、世界の読者に読んでもらえる可能性があります。臨床的な視点から、これは！と気づいた論文を、是非世界に向けて発信しましょう。投稿をお待ちしています。

(新野 正明)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡 古賀 政利
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」 第60巻 第4号 2020年4月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸田 達史
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>